

1

次の(1)～(5)の文章を読み、空欄に適する語句を記せ。

- (1) 約1万年前に□1に入ると、気候の温暖化に伴う自然環境の変化に対応して、縄文文化が成立した。縄文文化を特徴付ける主なものは、磨製石器と縄文土器、動きの速い中・小動物を捕るための□2、釣針・銚などに用いる□3の出現である。この時代の人々は一般に、貧富の差はあまりなく、竪穴住居の集落を営み、狩猟・漁労や植物性食料の採取が中心の生活を送っていたとされる。また、人々が広い範囲で交易を行っていたことが、産地の限られた黒曜石やサヌカイト（讃岐石）などで作られた石器が広い範囲で分布していることなどからうかがえる。
- (2) 中国の歴史書□4によると、紀元前1世紀頃の日本は100余国に分かれ、漢が朝鮮半島に設けた楽浪郡へ定期的に使いを送っていたという。また、1世紀半ばに倭の奴国王が後漢の光武帝に使いを送って印綬を与えられ、2世紀の初めには別の倭の国王が安帝に生口（奴隸）を献上したことが、中国の歴史書□5に記されている。
- (3) 古墳文化は、前・中・後期に分けられる。前期に西日本で営まれた古墳は中期には東北地方にまで広がり、しかも畿内では大仙陵古墳のような巨大な□6も築かれた。これはヤマト政権の支配圏が広がり、畿内の豪族の権力が増したことを表す。後期になると、地方では大型古墳が営まれなくなり、代わりに小さい円墳を中心とする□7が増えた。
- (4) 古墳時代には農耕儀礼が重視され、春に豊作を祈る祈年祭や、秋に収穫を神に感謝する□8などは、とくに重要な行事であった。氏の祖先を祀る社も造られ、天照大神を祀る伊勢神宮、大国主神を祀る出雲大社などが創建された。また、穢れをはらい災いを避けるための禊・祓や、鹿の骨を焼いて吉凶を占う□9、熱湯に手を入れて証言の真偽を判断する盟神探湯などの占術的風習も行われた。
- (5) ヤマト政権は、氏と呼ばれる血縁を中心に構成された同族集団ごとに、身分序列を表す□10を与え、豪族を支配・統制した。これを氏姓制度という。国政は、大王の下で、臣・連の□10を持つ豪族のうちの最有力者である大臣・大連が司り、その下で□11が伴・品部を率いて朝廷の実務を分担した。地方の支配は、ヤマト政権に服属した地方豪族を□12・県主に任じて、これに委ねた。



アプリに正誤情報を入力しよう！

QNM5A1-31K1-02

【解答欄】

1		2	
3		4	
5		6	
7		8	
9		10	
11		12	

2

次の文章を読み、下記の問に答えよ。

今からおよそ1万年前までを、地質学では更新世に分類する。更新世には、氷期と間氷期が交互に訪れ、氷期の海面低下により日本列島と大陸は陸続きとなった。更新世が終わると完新世に入り、環境に様々な変化が現れた。まず、気候の温暖化によって海面が上昇し、日本列島は大陸から切り離された。植物相では東日本に落葉広葉樹林、西日本に照葉樹林が広がり、動物相ではマンモスやナウマンゾウなどの大型動物に代わって、シカやイノシシなどの中・小型動物が登場した。環境の変化に伴って人間の生活も変化し、動きが速い中・小型動物を捕えるための①弓矢が作られたり、豊富になった木の実の採取などが行われたりした。また、遠浅の海に囲まれていたことから、漁労も行われた。こうした②新しい生活の中で成立したのが、縄文文化である。この時期には様々な新しい道具が登場した。煮炊きなどに使用されたとされる縄文土器や、(1)石器がその代表である。

縄文人たちは、ほぼ同じ大きさの(2)に住み、死後は共同墓地に埋葬された。埋葬方法の多くは、手足を折り曲げて葬る(3)であった。また、自然の影響を常に受けていたため、③自然物や自然現象に靈魂の存在を認め、病気や災いを取り除くために④呪術を行った。

その後、水稲耕作や金属器といった新しい文化が、朝鮮半島を通じて日本にもたらされた。⑤稲作は九州北部から始まり、やがて一部の地域を除き日本列島の広い範囲で行われるようになった。食料生産の開始に伴い農具も開発され、稲作伝来後しばらくは収穫の際に(4)を使った穂首刈りが行われた。用いられる土器にも変化が生じ、縄文土器に比べて薄手な弥生土器が作られるようになった。この時期の文化を弥生文化という。

稲作の普及は社会にも変化をもたらした。住居は依然(2)が主流であったが、次第に高床の住居や倉庫も⑥集落内に出現するようになった。また、九州北部に多く見られる甕棺墓・支石墓や近畿地方に多く見られる方形周溝墓には、銅鏡などの副葬品を持つものも見られるようになった。これらは、集団の中に指導者・首長が出現したことを示している。

問1 文中の1～4()に適する語句を記せ。

問2 下線部①に関して、「矢」の先端に付けられた石器は、何と呼ばれるか。

問3 下線部②に関して、貝類などの食物遺物、人工遺物が堆積して形成された、「新しい生活」の痕跡を残す遺跡を一般に何というか。

問4 下線部③「自然物や自然現象に靈魂の存在を認め」て崇拜する原始信仰を何と
いうか。

問5 下線部④「呪術」的な意味を持つと考えられる、縄文時代に作られた土製の人
形を何とよぶか。

問6 下線部⑤に関して、弥生時代の「稲作」では、前期から後期にかけて、開発さ
れる水田に変化が見られた。その変化について簡潔に述べよ。

問7 下線部⑥に関して、弥生時代を通じて営まれた、濠・土壘をめぐらせた「集
落」を何とよぶか。

【解答欄】

問1	1		2	
	3		4	
問2			問3	
問4			問5	
問6				
問7				

3

次のA・Bの史料または文章を読み、下記の間まに答えよ。

- A 一に曰く、和を以て貴しと為し、忤さからふること無きを、宗とせよ。(中略)
 二に曰く、篤く三宝を敬へ。三宝とは〔 a 〕なり。(中略)
 ①三に曰く、詔を承りては必ず謹め。君をば則ち天とす。臣をば則ち地とす。

B 推古天皇の朝廷が置かれた飛鳥で②飛鳥文化が開花した。この時代には、蘇我馬子によって蘇我氏の氏寺として建立された(1), 厩戸王(聖徳太子)の発願によって建立されたといわれる③法隆寺や四天王寺などの寺院が相次いで建立され、国際色豊かな仏像が安置されたが、一般に仏教は呪術の一種として信仰されていた。そうした中、厩戸王は自ら法華経・勝鬘経・維摩経の註釈書である三経義疏を著すなど、仏教への学問的な理解を深めたとされる。また、渡来僧により朝鮮半島から様々な文物が伝えられ、百済の観勒が曆法を、高句麗の(2)は絵の具・紙・墨の製法を伝えた。

- 問1 史料A中の〔 a 〕に適する語句を記せ。
 問2 史料A中の下線部①の条文の中で説かれている内容を簡潔に記せ。
 問3 史料Aは一般に何と呼ばれるか。
 問4 文章B中の1・2()に適する語句を記せ。
 問5 文章B中の下線部②「飛鳥文化」の特色として正しいものを、次のア～エの中から1つ選び、記号を記せ。
 ア 律令国家の繁栄と最盛期の唐の文化の影響を受けた、国際色豊かで貴族的・仏教的色彩の濃い文化である。
 イ 日本最初の仏教文化であり、中国南北朝の文化や朝鮮半島の文化、西方の文化の影響を受けた国際色豊かな文化である。
 ウ 唐文化の影響を受け、漢文学や天台宗・真言宗による神秘的で重厚な密教芸術が特色である。
 エ 初唐の影響を受けた仏教文化で、律令国家の発展にふさわしい、明瞭で清新的文化である。
 問6 文章B中の下線部③に関して、「法隆寺金堂釈迦三尊像」を制作した仏師はどれか。

【解答欄】

問 1				
問 2				
問 3				
問 4	1		2	
問 5			問 6	